

鎌倉幕府成立の立役者

比企一族を訪ねて！

— 多くの伝承が残る

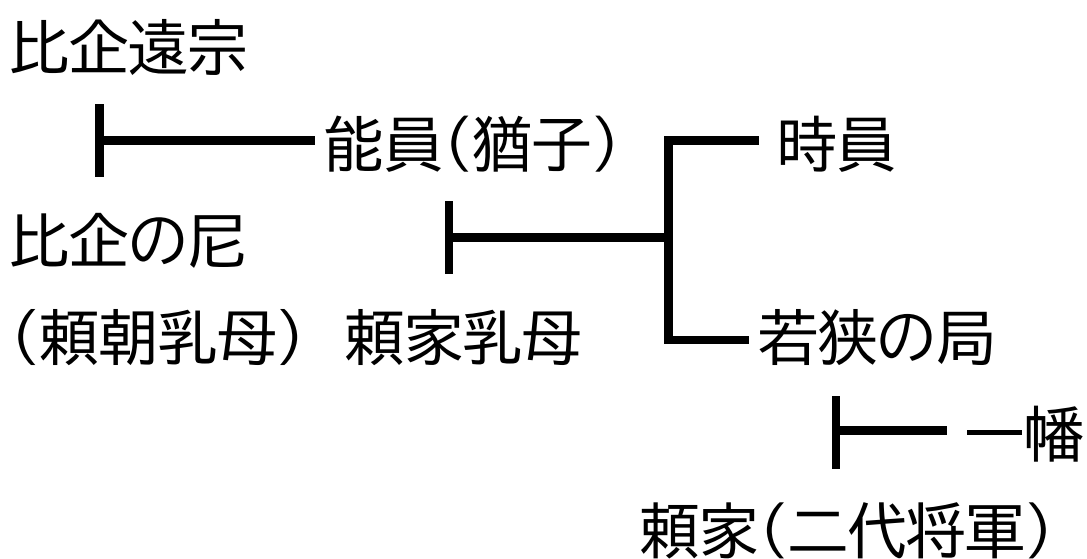
大岡地区を巡る —

東松山市

大岡地区ハートピアまちづくり協議会

はじめに

東松山市の北部大岡には多くの伝承が残っています。特に大谷地区には、源頼朝による鎌倉幕府創立の原動力として大きな役割を果たした比企氏がこの地から伊豆に流された頼朝を20年間支援したことから、比丘尼山を始め比企氏にまつわる地名・遺跡や伝承等を数多く残しており、比企の尼や若狭の局が、鎌倉幕府二代将軍頼家の菩提を弔った地と言われています。



比企一族について

伝承の地を訪ねる前に、比企一族について簡単にお話ししたいと思います。

平安時代末期、比企遠宗(ひき とうむね)は、清和源氏の頭領源義朝(みなもと よしとも)の家臣でした。義朝は、久安3年(1147)三男頼朝が生まれると、頼朝の乳母に比企遠宗の妻を任命しました。

その後、強力な武力を持った武士達は、朝廷や摂関家の争いに巻き込まれ、ついに保元の乱を経て、平清盛と源義朝は完全に立場を異にし、平治元年(1159)頼朝13歳の時、2人の間に争いが起きました。平治の乱です。しかし源氏方は平氏に敗れ、義朝や2人の兄は死んでしまいました。頼朝も初陣として、この戦いに参戦していましたが、捕らえられ翌年、14歳で伊豆国蛭ヶ島に流されてしまったのです。

頼朝が伊豆に流されると、比企の一家も

頼朝の世話をするため都から武蔵国比企郡に移りました。比企遠宗亡き後、残された妻は比企の尼として、伊豆の頼朝のために比企の地から食料・衣類、紙などを届け、物心両面で支援してゆきました。流人頼朝の世話をしたのは、比企の尼の家族だけであったようです。

比企一族の世話は、頼朝の流罪から治承4年(1180)平家打倒の旗揚げをするまで、20年間の永きにわたり続いたのです。

このことからしても比企一族が居なければ鎌倉幕府の成立は無かったと言っても過言ではありません。頼朝旗上げ後、比企氏は一族をあげて頼朝の武士政権「鎌倉幕府」の成立に貢献したのです。

比企家を継いだ比企能員(ひき よしかず)は幕府内で重要な地位に着き、娘の若狭の局は頼朝の嫡男頼家に嫁ぎ、長男一幡を産みます。

しかし建久10年(1199)1月、頼朝が亡くなり、嫡男頼家が18歳の若さで二代将軍となりましたが、実朝を擁立して鎌倉幕府の実権を握りたい北条氏と比企氏の間で権力の争いが起きてしまいました。

そしてついに建仁3年(1203)、北条時政は、実朝を将軍にするため、障害となる比企氏を倒す画策を進め、9月2日「北条邸にて薬師如来の法要があるのでおいでください。」と比企能員を誘いました。能員は平服で、少ない供のみで北条邸に入った途端、殺されてしまったのです。さらに北条氏に率いられた幕府軍は、比企氏の屋敷を襲い、一幡を殺害し、比企氏は滅亡したのです。

北条時政は、将軍頼家を廃し、伊豆の修善寺に幽閉、翌年7月に殺してしまいました。妻の若狭の局は、夫頼家の遺骨を抱いて、ここ大谷に逃れ菩提を弔ったと言います。

伝承の地を訪ねる

① せんこくさんそう ご じ 扇谷山宗悟寺(曹洞宗)

東松山市街から大谷・材木町線を熊谷方面に向かい、大谷の交差点を左に曲がり500mほど行くと右手に宗悟寺への参道が開けています。宗悟寺は、趣のある参道と山門のある寺院です。言い伝えによると、北条氏の謀略により夫頼家を殺害された若狭の局は、その遺骨を抱いて比企郡大谷村へ逃れ、村の西方の比丘尼山に庵を結びました。庵は村の名と頼家の法号をとって「大谷山寿昌寺」と名付けられ、夫頼家の霊を弔ったと云います。

寿昌寺は、天正20年(1592)、徳川家康の関東転封に伴い、大谷の地を知行した旗本森川氏の菩提寺となりました。

森川金右衛門氏俊は、寺を比丘尼山から現在の扇谷に移し、寺の名を「扇谷山宗悟寺」

と変えました。

森川金右衛門氏俊の法号は「桐蔭宗悟居士』と云います。宗悟寺には、若狭の局が持ち帰ったと伝わる頼家公の位牌を今に伝えており、境内には、地元の有志による比企一族顕彰碑が設置されています。

また寺の背後には森川氏累代の墓も置かれています。なお森川氏の江戸屋敷は本郷にありましたが、昭和40年(1965)まで、そのあたりは森川町と呼ばれていました。現在は文京区本郷となっています。



扇谷山宗悟寺山門

② 比丘尼山と寿昌寺跡

扇谷山宗悟寺の西方約500mの所に、「比丘尼山」と呼ばれる女性的な美しい山があります。その昔、比企遠宗の妻比企の尼が、夫遠宗亡き後、尼となって草庵を結んだ所と伝えられている場所です。

また、「郡村誌」には、この比丘尼山について、「高一丈周圀八町、村の西にあり、往時源頼家伊豆国修禅寺に於いて薨せし時、若狭の局遺骨を奉し此村に來り、遺骨を葬り庵を結び居住せしにより、庵を修善寺と呼び比丘尼山と呼ぶと口碑に伝う…」

若狭の局が建立したと伝える「大谷山寿昌寺跡」は、この草庵址に程近い北の小高い丘陵で、この辺から南は、今でも主膳寺と呼ばれる地域です。

この比丘尼山には横穴墓古墳が造られており市指定史跡となっています。



比丘尼山

③ 城ヶ谷と比企能員館跡

宗悟寺の東、雷電山の真南にある奥深い谷が、いわゆる城ヶ谷で「埼玉県史」や「埼玉の神社誌」には、ここに比企能員の館があったと記しており、口碑もそのように伝えています。しかし、残念ながら、これまでに館跡は発見されていません。確かに、この地は鎌倉の比企ヶ谷によく似た地形で、中内出と呼ばれる最も早くから開かれた地域にあり、谷の北から東に連なる丘陵には、多くの住居跡とその祠が残り、このあたりは、比企の乱後、若狭の局に従って落ちて来たと伝える頼家の側近の子孫が住んだと伝わっております。

④ 梅ヶ谷と若狭の局

梅ヶ谷は宗悟寺の南約400mの所にあります。ここは若狭の局が年老いて隠棲した所と伝えられている場所です。

この谷は、東方から南西へと丘陵が続き、汲めども尽きない清らかな泉の湧く、暖かい日だまりの地で、昔から梅の古木の多い美しい花園でした。

夫を失った若狭の局が、比丘尼山の草庵から移り、静かに余生を送るのに絶好の地であったと思われます。なお、森川氏が陣屋を構えた地でもある。



梅ヶ谷遠景

⑤ 伝説「若狭の局と串引沼」

宗悟寺の西、比丘尼山に隣接して、東の谷の奥深く、串引沼という大沼があります。「郡村誌」には、この沼を「奇比企沼」と記しており、次の様な悲しい伝説が伝わっています。

「その昔、比丘尼山の草庵に住み、夫頼家の菩提を弔っていた若狭の局は、祖母比企の尼の勧めで、心の迷いを去る為に、鎌倉より持参し肌身離さず持っていた夫頼家からおくられた鎌倉彫の櫛を捨てようと心に誓いました。

夜の明け染めた早朝、朝の勤行を済ませ、祖母の比企の尼と二人連れだってこの沼に行き、頼家形見の櫛を沼に投げ入れました。櫛はかすかな水音を残して沼底深く沈み、その姿が見えなくなりました。

その時若狭の局はもちろん、比企の尼の両眼からも涙がとめどなく流れ落ちていました。

時は元久2年(1205年)7月半ば、丁度、
夫頼家の命日に当たる日であったと云いま
す。」



串引沼

⑥ 秋葉神社

宗悟寺から道を挟んで南、小高い丘の上に秋葉神社と云い、火伏の神様として信仰を受けている神社があります。江戸時代の領主森川氏は、この神社を江戸本郷の屋敷に分祀し、守り神としていました。

ある日、江戸を火の海にし、ことごとく焼き尽くしてしまうような大火事が起こりました。しかし森川氏の屋敷だけは火の難を逃れたそうです。そのため火伏の神として有名になり、この大谷の秋葉神社は、松山の町からもお参りする人も増え、そのお参り道が、今も「秋葉道」として残っています。



秋葉神社

⑦ 雷電山古墳

古墳のある雷電山は、標高97メートルあり、東松山北部では一番高い山です。雷電山古墳の周辺は、三千塚古墳群と言われ、多くの古墳が造られていました。

雷電山古墳は、ホタテ貝の形をした前方後円墳で、5世紀初頭に造られた古い古墳です。古墳からは、埼玉県で最古の埴輪がみつかっています。

また雷電山の頂上は、今は木が茂っていますが、その標高の高さから、見晴らしが良く、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原北条攻めの時には、前田利家に率いられた北国軍が、小田原北条の支城「武蔵松山城」を攻めますが、寄手総大将前田利家の陣は、雷電山に置かれたと云います。またこの時、武蔵松山城の守備陣の中に比企氏の末裔「比企左馬介則員」の名が見えます。

⑧ 大雷神社

雷電山の上には創建が貞観元年(859)と伝わる大雷神社が祀られています。祭神は大雷命、水の神様です。大谷地区は水利の便が悪く、大雷命を祀って降雨祈願を行っていました。

江戸時代、県内各地で豊作の年の祭礼に江戸から力士を招き、相撲興行が行われましたが、その中でも大雷神社の奉納相撲は、関八州取締役の御沙汰により行われ寛政年間(1789~1801年)になると、江戸の両大関がそろい、盛大に行われました。

相撲場は、一の辻と二の辻の2カ所あり、一の辻では大相撲が、二の辻では草相撲が行われていました。どちらも山の傾斜を利用して観覧席が出来ており、地元大谷の住民にはそれぞれ持ち分があり、そこに座った客に「ぼたもち」を振るまった事から、「大谷のぼたもち相撲」と言われるようになりました。

あとがき

比企一族に関する伝承如何でしたか？

東松山市の北部、大岡の地は古より人々の生活が営まれ、国指定文化財の光福寺「宝篋印塔」・「大谷瓦窯跡」、国選択記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として「上岡観音の絵馬市の習俗」等多くの史跡、文化財が残されております。

これを機に大岡地区を再訪頂き、お楽しみいただけたら幸いです。

文：比企一族歴史研究会
会長 西村 裕

作成 令和3年3月1日

作成者 東松山市・大岡地区ハートピアまちづくり協議会

住所 〒355-0008 東松山市大字大谷3400-10

東松山市立大岡市民活動センター内

TEL 0493-39-0602